

県営風力準備書に係る質問（酒田市環境審議会）に対する回答

	質問	回答
1	送電線を埋設するということでしたが、どの程度の太さのものを、どのように埋設するのでしょうか？	対象事業実施区域内においては、幅 0.9m、深さ 1.0m 程度掘削し、直径 12.5cm～15cm の電線管に太さ 6.8cm～7.4cm の送電線を、また直径 6.5cm の電線管に太さ 0.9cm の信号線をそれぞれ入れて敷設し、敷設後は埋め戻すこととしています。 (準備書本編 p2-13(15))
2	クロマツには影響がないということでしたが、林を避けて埋設するのでしょうか？埋設する場所をお示しいただければ幸いです。	送電線については、風力発電施設設置位置から森林管理署管理道をとおり、その後は市道等に埋設する計画としています。(準備書本編 p2-14(16)) 風力発電施設設置位置から森林管理署管理道までの間には、クロマツ植林（低木・幅 20m程度）がありますが、敷設にあたっては現地の状況に合わせて、クロマツを回避しながら埋設していくこととします。
3	準備書について「住民等の意見」は、何人から寄せられたのか？ また、そのうち、地元の人は何人いたのか？	準備書に係る「住民等の意見」につきましては、10 名の方から意見を頂いております。そのうち、酒田市在住の方は 5 名でした。 また、風力発電施設計画地周辺の 4 つの地域（八重浜、十里塚、浜中、宮野浦）在住の方からの意見はありませんでした。

	質問	回答
4	何らかの事情で、事情が中止となり、工事途中で撤去の必要が生じた場合や事業者終了した場合、現状復帰は行うのか？その方法は？	風力発電施設の撤去につきましては、設置時と同様の作業及び原状復旧を行うものと考えております。
5	両事業の位置は近接していることから、両事業の累積影響について予測、評価を行い、その結果にもとづき環境保全措置を検討することが重要と考えます。 しかし、先日の勉強会の説明では、各項目の記載について、各事業単独についての説明なのか、累積影響についての説明なのか明らかになっていませんでした。 審議会や市民への説明の際には、累積的な影響についても具体的に説明すべきと考えるが、貴見をお知らせ下さい。	準備書では、工事中の累積的影響として、大気質、騒音、振動及び植物、また供用時の累積的影響として、騒音、超低周波音、動物、生態系及び景観について予測・評価を行い、その結果を踏まえ、環境保全措置を検討しております。 先日の勉強会においては、供用時の騒音、超低周波音、景観及び総合評価に関する累積的影響についての説明を行ったところですが、審議会等への説明の際には、ご指摘のことに留意して説明いたします。
6	両事業において重要な種や生態系への影響を予測する際の注目種等の選定が異なっている。 しかしながら、前述のとおり、両事業の位置は近接していることから、お互いの調査結果を共有したうえで、予測、評価を行うべきと考えるが、貴見をお知らせ下さい。	本事業と酒田市事業の調査結果は共有しており、大気質、騒音、超低周波音、動物、植物及び景観等において予測・評価に反映させております。

	質問	回答
7	<p>当該事業実施区域は、我が国有数の渡り鳥の重要な飛来地として国指定最上川河口鳥獣保護区に指定されており、ガン・カモ類やハクチョウ類の渡りルート上に位置していることから、渡り鳥へのバードストライク等の影響を軽減する必要があると考える。</p> <p>渡り鳥の飛来のピークとなる時期における環境保全措置の考え方について、貴見をお知らせ下さい。</p>	<p>渡り鳥の調査結果では、確認された飛翔コースは、ほとんどが南北方向ですが、本事業と酒田市事業の風力発電施設は、いずれも南北方向に直線状に配置しているとともに、年間を通して、風向が東西方向に多いことから、風力発電施設のブレードの回転方向は、南北方向に飛翔する渡り鳥のコースに対しては平行になることが多いと考えられます。そのため、渡り鳥の飛来のピークとなる時期を含め、バードストライク等への影響は小さいと見ています。</p> <p>また、砂丘の上空を飛翔している鳥の多くは、ブレード回転域よりも低空を飛翔しており、渡り鳥のバードストライクにつきましては、キアシシギが3基あたりで0.12羽/年、ハクセキレイが3基あたりで0.07羽/年が衝突する予測結果となりました。</p> <p>なお、渡り鳥については、事後調査も行う計画です。</p>

	質問	回答
8	各環境保全措置については県、市が連携し検討、実施されるものと解して良いか貴見をお知らせ下さい。	各環境保全措置については、必要に応じて、県及び市が、お互い連携して検討、実施していくものと考えております。
9	<p>準備書P637 ガン・カモ類についてバードストライクの可能性のある場所高度で確認されていないとのことであるが、市の準備書によるとマガン、オオハクチョウによるとバードストライクの可能性のある高度での飛来が確認されている。</p> <p>前述のとおり、両事業の位置が近接しており、累積的影響の把握が重要であることから、ガン・カモ類を含めた渡り鳥についても、市の結果を引用するなどして、市の風力発電施設もあわせた6基での影響の予測、評価を行い、環境保全措置を検討すべきと考えるが貴見をお知らせ下さい。</p>	ご指摘のことについては、市の調査結果を引用して、累積的な影響の予測・評価を行うことを検討します。

	質問	回答
10	<p>準備書P786 コアジサシについて大浜から赤川南までの間で4カ所の繁殖地が見られたことから、飛来する地域個体群は維持されることであるが、維持されるとした具体的根拠についてご教示下さい。</p> <p>なお、猛禽類保護センター職員によると、毎年、大浜でコロニーが形成されるが、大浜での工事が盛んになる時期にコロニーの規模が縮小後消失すると同時に、十里塚方面へと南下し繁殖コロニーが再形成されていることであり、この地域の地域個体群にとって、当該事業区域の重要性は高いものとするが貴見をお知らせ下さい。</p>	<p>コアジサシについては、下水処理場や空港などの人工物付近でも営巣・生息が確認されていることや風力発電施設から50～100mの地点に営巣した事例があります。</p> <p>この鳥は、移動能力が高く、裸地的環境を好んで営巣する特性を有しており、庄内浜においても砂浜環境の変化に応じて対応するものと考えられ、最上川北の大浜から赤川南までの約13kmの区間において、繁殖地が4箇所確認されていることもあり、飛来する地域個体群は維持されるものと予測しております。</p> <p>学識経験者等からも、コアジサシの地域個体群は、風車建設後も維持されると思う、との意見をいただいております。</p> <p>また、当該事業区域の重要性は高いものと考えられることから、繁殖地の保護に資するため、学識経験者等の指導・助言を受けながら、車両の進入抑止に向けた注意喚起看板の設置、繁殖区域を保護するための繁殖地を含む一定区域の囲いの設置、誘引のためのデコイ及び雛の保護のためのシェルターの設置等について、検討してまいります。</p>
11	<p>準備書P737 注目種について市の評価書では上位性を示す種としてミサゴが選定されている。両事業は近接して行われることからミサゴについても注目種に選定し影響を予測、評価すべきと考えるが貴見をお知らせ下さい。</p>	<p>ミサゴについては、魚食性のため海域での捕食活動が多いことから、注目種として陸側での捕食活動が多いオオタカとハヤブサを抽出しております。</p>

